

Q どうして10年間も支援するの？

A 新たなHTB再生のためには、長期間の支援が必要と判断しました

HTB事業は、開園以来、黒字化されたことが一度もなく、開園後18年が経過しているため、老朽化した施設の維持費用なども相当掛かると試算されており、新たな魅力づくりのための資金確保などが難しい状況であるとお聞きしています。

HTB再生のためには、こうした厳しい状況の中で、現在の運営方法や事業計画などを改善し、魅力的な事業として長期的に成り立つものに見直さなければなりません。本市ではこうしたことなどを総合的に考え、長期的に支援することが必要と判断し、原則10年間にその再生期間と位置付けました。

今後HTBの経営が順調に進み、支援期間内に支援(交付金)がなくても安定的な経営が継続可能と判断できる場合には、お互い話し合いの上、交付期間を短くすることもあります。

Q 再生支援交付金の目的は何なの？

A HTBの固定経費を軽減し、収支の改善を図ります

HTB事業の収支構造の特徴として固定的な経費が大きいことが挙げられます。固定的な経費とは、広大な敷地や建物、設備などにかかる光熱水費や維持修繕費、税金などで、その合計は年間約98億円(直近の3カ年平均)に上り、支出全体の約68%を占めています。

固定経費が大きいと、売上げが低下しても広告宣伝やイベントなど必要な投資を行うことが困難になります。また、そのことがさらに売上げを低下させる要因になってしまいます。

HTB再生支援交付金は、そうした固定経費の1つである固定資産税・都市計画税に見合う額を一定期間交付し、HTBの硬直した収支構造の改善を行った上で再生を図るために交付するものです。



佐世保の宝 これまでも これからも かけがえのない「まち」の再生を

ハウステンボス再建問題で、株式会社エイチ・アイ・エスに対する市の支援策(諮問案)が2月22日深夜の市議会で同意され、官民一体となってハウステンボスの再生を支援していくことが決まりました。本市のまちづくりに欠かせない「まち・ハウステンボス」の再生支援にご理解とご協力をお願いします。



Q どうしてハウステンボスを支援するの？

A 1000人以上の雇用喪失、350億円以上の経済ダメージなどから市民生活を守り、本市のまちづくりに必要不可欠な「まち・ハウステンボス」を再生・発展させるためです

ハウステンボス(HTB)は、他都市では見ることのできない美しい景観と先進的な環境システムを有し、開園以降の入場者数が500万人を超えるなど、本市観光施策の大きな柱となっています。また多くの人たちが働き、住み、交流していることから、単に観光施設というだけでなく、一つの「まち」として機能していると言えます。

近年、世界同時不況や円高による外国人観光客の減少など観光事業を取り巻く環境が急速に悪化し、昨年2月、HTBは285人の人員削減、一部ホテルの休館などの経営効率化を図られました。しかしその後も想定以上に入場者数が落ち込むなど、事態は好転せず、8月ご

ろには事業の継続が非常に困難な状況に陥られました。仮にHTBが閉園になった場合、本市は大きな経済基盤を失うことになり、1000人以上の従業員の方々の雇用喪失や350億円以上の地域経済へのダメージ、連鎖倒産の可能性など、さまざまな影響が懸念されます。また重要な観光拠点を失うだけでなく、本市にとってかけがえのない「まち」を失ってしまうこととなります。本市ではこうした考え方を踏まえ、大きな経済ダメージなどから市民生活を守り、本市のまちづくりに欠かせない「まち・ハウステンボス」を再生・発展させるために支援を行うことにしました。

全力を挙げて、喜んでもらえるハウステンボスにしていきます



3月1日、本市は株式会社エイチ・アイ・エス(HIS)とHTB管財人の三者で、HTB支援に関する基本合意書を締結しました。その直後の会見で、朝長市長は「一つのまちがなくなってしまうという認識の下、

東奔西走しました」とこれまでの対応を振り返り、HISの澤田会長は「大きな責任とプレッシャーを感じています。全力を挙げて喜んでもらえるハウステンボスにしていきます」と新たな決意を述べました。また今後の事業展開について澤田会長は、3月26日に大まかな事業計画を発表するとして、上で、「世界的なイベントの実施」や「アウトレットモールの建設」「医療観光の導入」「料金の見直し」などを検討していることを説明し、「3年、5年、10年かけて東洋一楽しい、美しい観光ビジネス都市にしたい」と話しました。

※写真は今後の事業展開を話す澤田会長。

市民の宝、九州の宝と 感じられる再生策を



朝長市長は、平成22年度施政方針の中で、HTB支援について、次のように話しました。一更生会社ハウステンボス株式会社では、新しい代表取締役としてHISの澤田会長が就任されるとお聞きしており、いよいよ澤田会長が思い描かれるハウステンボス像がこれから具体化していくものと期待しています。

ハウステンボスの再生への道のりは、ようやくスタートラインにたどり着いたところであると感じていますが、新しいハウステンボスがスタートしたあかつきには、市民の皆さんが今まで以上に「佐世保の宝」「九州の宝」と感じることができるよう再生策を講じていただきたいと思います。市としてお願いしていききたいと思います。

※写真は3月議会で施政方針を述べる朝長市長。

Q ハウステンボスにどのような支援を行うの？

A 再生支援交付金の原則10年間交付など3項目の支援を行います



本市の支援策は次のとおりです。

- ①固定資産税・都市計画税に見合う額の再生支援交付金の原則10年間交付
※年額約8.8億円で、10年間の交付額は約73億円と想定しています。
- ②HTB園内別荘地道路の公道化の検討
- ③園内排水高度処理施設の公有化

■年額約8.8億円の財源内訳

- ①来年度以降も見込むことができる経常的な財源
 - ①市の事務事業の見直し 1億円
 - ②国からの地方交付税の活用 3億円
 - ③2町との合併効果 2億円
- ②平成22年度単年度限りの一時的な財源
 - ①国の補正予算を活用した事業の前倒し 約1.8億円
 - ②競輪事業からの繰入金 1億円

■市議会から市への要望事項

- ①交付金の原資については、市民への行政サービスの低下を招かないこと
- ②交付金の使途については、維持修繕や商品の市内企業への発注あるいは雇用の確保について、(株)HIS並びに更生会社HTB(株)の理解を得るよう協議を行うこと
- ③基本合意書における協議事項については、協議の過程状況を遅滞なく議会へ報告し、了解を得ること。